

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

2020/3/23

札幌市立西岡中学校

1 本年度の重点目標

1. 自ら進んで学習する力の育成
2. 豊かな人間性の育成
3. 生徒会活動、学年・学級活動の充実
4. 教育環境の整備
5. 特別支援教育の推進
6. 道徳教育の充実
7. 札幌らしい特色ある学校教育の推進（雪、環境、読書）
8. 信頼される学校の創造

2 本年度の経営方針

- (1)心豊かに逞しく生きる人間の育成のために、基礎・基本の重視と個性教育の充実のための教育課程の編成・実施及び評価・改善
- (2)学ぶ意欲を高める授業の創造と実践
- (3)人間性豊かな心を育て、生き方を学ぶ教育の推進
- (4)生徒自らが自己実現に充足感を持ち主体的に判断し行動できる「生きる力」の育成

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況 ()は昨年	改善の方向	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
学校運営	1 学校の教育方針や経営の重点について共通理解が図られている。	5 96.0% (96.0%)	◇今年度も高い達成率になっているが、教職員の課題意識を今後の教育活動に活かしていきたい。 ・「学ぶ力」育成プログラムを軸として、新学習指導要領に沿った教育課程を実践していく。 ・本校教育課程の方針や具体的な取組を広く理解していただくために、学校だより等の紙面やHPによる情報提供に努めるとともに、保護者・地域にも積極的に教育活動に参加していただき、本校の新たな教育活動を展開していきたい。	A	A
	3 教職員は、協力して行事や生徒の指導にあたっている。	5 90.5% (93.1%)	◇高い達成率ではあるが、教職員はより良いものを目指して改善しようとする課題意識をもっている。 ・新学習指導要領の本格実施を控え、行事の再編と教育課程の改善を通じて教職員間のコミュニケーションを深め、「協働」の意識をもって指導にあたる。	A	A
	19 教職員は、いろいろな場面で学校の改善に向けて話し合いを重ね、工夫しながら取り組んでいる。	5 92.0% (92.0%)	◇高い達成率となった。 ・新学習指導要領の実施に向けた『道徳』『総合』『教科』の3つのグループ研修を継続し、内容を深めていく。 ・小学校と深めてきた「連携」をさらに前進させた「一貫した教育」を目指して、情報交流による研修を基盤にして、直接生徒がかかわる実践に取り組みたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	教職員が必ずしも「仲良し」になる必要はないが、深い理解をお互いにもつことは重要である。コミュニケーションの機会を大切にして、共通理解と協力体制をいっそう高めてほしい。				

学習指導	10 授業の中で、授業の「ねらい」や学習のポイントが説明されている。	5 85.5% (87.4%)	◇本校の取組として定着してきており、高い達成率となった。 ・単元ごとに「学習のねらい」を明確にし、授業ごとに生徒が目的意識をもって学習活動を行い、学習活動のまとまりごとに「振り返り」を行うことで、成果と課題を把握させ、次の学習への意欲を高めさせたい。	B	A
	11 仲間と話し合い、考えが深まる授業や活動を行っている。	4 83.8% (85.8%)	◇生徒の評価は向上しており、授業を通じた積みかさねを継続していく必要がある。 ・「思考・判断・表現する力」を身に付けさせる手立てとして、「ペアワーク」「グループワーク」による「言語活動」の取組をベースにして、プレゼンテーションや議論の場面へと発展させる取組を継続する。	B	A
	12 道徳性を養う教育に取り組み、生徒の道徳性を高めている。	5 91.0% (90.9%)	◇高い達成率となったが、今後も重要課題として取り組む必要がある。 ・校内研修会において実践的な授業研修を行うとともに、外部講師による研修で「評価」についても具体策を検討することができた。今年度、部活動休止日に行った授業検討会の取組を継続し、道徳の授業実践力を高めていきたい。	A	A

学習指導	14 ティームティーチングの導入で、指導の成果を上げるようにしている。	4 76.6 (81.8%)	◇3教科での実施により、効果を実感する生徒が2.6ポイント増えた。 ・英語科、数学科に加えて国語科と理科で、学習理解のサポートが必要な生徒を中心に実施できたのは良かった。 ・学習理解のために効果的な指導方法を工夫し、今後も継続して取り組んでいきたい。	A	A
	16 生徒の「予定」や「計画」を見て、家庭学習に向けてアドバイスに活用している。	4 71.7% (72.6%)	◇改善の工夫を続けているが、生徒と保護者の評価が70%に達していない。 ・「記録シート」と「教育相談」の取組を継続する。 ・学級担任による指導だけではなく、活動をより広く知っていただくことで、家庭との連携によって改善を図っていきたい。	B	B
学校関係者評価委員による意見	道徳は教えづらい教科であると思うが大事な科目なので、是非工夫して世の中の役に立つ人間になるように指導してほしい。また、TTによる学習理解が深まっているようだが、教員の過度な負担にならないように配慮してほしい。				

生徒指導	5 「あいさつ」を大切にする学校づくりをしている。	5 86.4% (91.6%)	◇肯定評価が5.2ポイント下降したが、ここ数年継続して85%を超える高い達成率を継続している。 ・生徒と教師が一体となって取り組む「あいさつアクション」を継続し、日常生活での習慣化を図るとともに、より良い人間関係を築いていく。	A	A
	8 学校はいじめや暴力などの諸問題に敏速に対応している。	5 87.8% (85.1%)	◇生徒・保護者ともに高く評価していただくことができたが、引き続き危機感をもって誠実に取り組みを続ける必要がある。 ・全教職員が生徒の変化をも逃さず感じ取り、心配される状況を未然に防ぐことができるように、情報共有と素早い対応に努める。 ・札幌市全体で行われる調査だけではなく、本校独自の生活調査の実施を継続し、結果分析を迅速に行うとともに、生徒や保護者へ真摯に対応する。	A	A
	9 生徒や保護者との相談には、すぐに対応している。	4 79.1% (78.4%)	◇生徒の評価は6.3ポイント上昇しているものの、必要な相談をしやすくするための対策が必要がある。 ・保護者の立場にたつて、いつでも相談できる雰囲気づくりに努めたい。学校公開日などの機会をとらえ、信頼関係を深めたい。 ・生徒に対しては、年間2回の教育相談期間の設定だけではなく、全学級が毎日実践している「記録シート」を活用することで、より望ましい信頼関係を築いていきたい。	A	A
	18 時間を意識して行動させるように努めている。	4 83.3% (86.5%)	◇保護者による評価が8.2ポイント下がるなど、全体的に下降傾向にあった。 ・授業のときには「3分前着席」を心がけることを、委員会活動を通じて実践している。教師からの指導だけではなく、生徒を巻き込んだ活動により生活状況を改善できるように、指導を継続する。	A	B
学校関係者評価委員による意見	中学生はもはや子供ではないので、表面的な対応は見透かされてしまう。たとえ解決に至らなくても、誠実な対応は生徒にも伝わるのではないかな。いつでも相談に応じることや具体的な相談方法を、折に触れて伝え続ける必要がある。				

特別活動等	7 学校行事は生徒が意欲的に取り組めるように工夫している。	5 88.5% (89.9%)	◇高い達成率となっているが、生徒が主体的にかかわることができるように、内容や設定を工夫す必要がある。 ・1年間、あるいは3年間の見通しの中で、行事の構成や目的を整理し、教育課程全体の関連性と効果を検証することで、生徒のより良い成長につながる工夫と改善に努める。	B	A
	17 生徒が学級、学年、生徒会の活動に目的を持って取り組むようにしている。	4 81.0% (84.2%)	◇全体としては比較的高い達成率だったが、生徒や保護者の評価は下がっている。 ・限られた活動時間で望ましい効果をあげるために、目的と内容を整理し、仲間と協力して目的を達成する喜びや成就感を実感できるように、取り組み方を工夫する。	B	A
学校関係者評価委員による意見	「自主性を伸ばす」と簡単に言われるが、実際には非常に難しいことである。根気よく長い目で生徒にはたらきかけ、将来にわたって生徒の糧となる経験になるよう、粘り強く指導してほしい。				

※ 達成状況の評価は、生徒・保護者・教職員の評価結果（『①そう思う』+『②どちらかというと思う』の%）を総合し、5段階で評価した。
5段階評価は、85%以上を「5」、70%以上を「4」、50%以上を「3」、25%以上を「2」、25%未満を「1」として表した。
※ 学校関係者評価の評価は、良い方から「A、B、C」の3段階で評価した。